

分野別方針10 大学

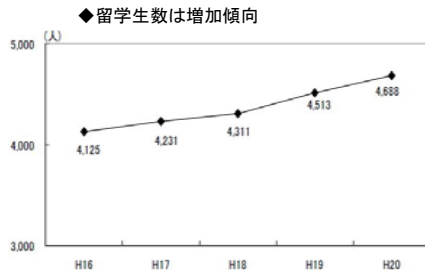
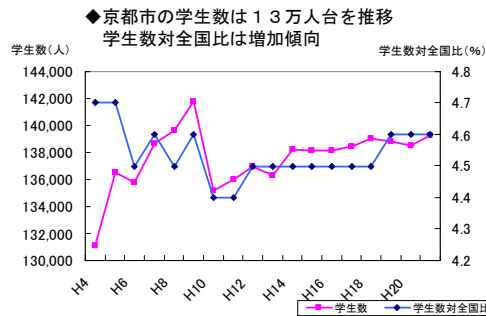
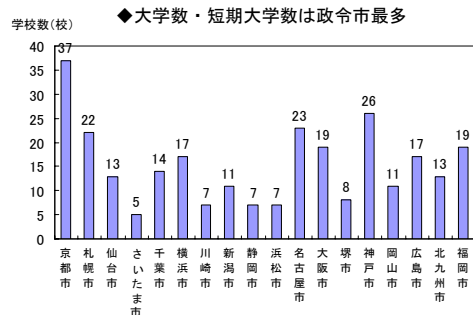
～大学の集積が都市の活力を支え高めるまちづくりを推進する～

基本方針

少子化の急激な進行と大学間の国際競争が進む中、国内外の学生を受け入れ、先見性や創造性、卓越した指導力を持つ人財を育成する。また、集積された大学の知を新産業の創出や芸術文化の創造に活かすことにより、魅力と個性にあふれる「世界に誇る大学のまち・学生のまち」となる。

現状・課題

- 大学進学率は高まっているが、少子化の進展により、今後は学生の増加が見込まれず、大学の経営環境は厳しさを増している。国内はもとより、国際的な大学間競争が激化する中、京都で学生生活を送るからこそ享受できる、京都ならではの講義プログラムや伝統文化に触れる機会等、京都で学ぶ魅力を更に高める必要がある。
- 国の「教育振興基本計画」では、大学等の国際化を特に重点的に取り組むこととし、「留学生30万人計画」を計画的に推進している。本市においても、大学と連携して、留学生の受入体制の整備、受入気運の醸成等留学生の受入拡大に取り組む必要がある。
- 他都市に例を見ない人口の約1割に当たる学生のエネルギーを高め、地域活動に活かし、まちの活性化につなげることが、京都のまちの発展の原動力である。更に、京都は学生にとって、地域社会を支える人財として、社会人に求められる「人間力」を涵養する舞台となる必要がある。
- 京都経済の活性化に向けた、産学連携の強化、大学教育における地域体験型授業の促進等大学での取組を地域の課題解決やまちの活性化につなぎ、学生が社会で活躍できるような、大学と地域が連携する仕組みづくりが望まれる。



政策の目標

<みんなで目指す10年後の姿>

- 個性あふれる大学の集積というメリットを活かし、大学間連携による「学びの環境」の充実する京都市は、卒業後に、先見性や創造性、卓越した指導力を発揮する人財を京都のみならず全国へ送り出している。また、伝統的な文化・芸術等に触れる機会に恵まれた京都で学ぶことが、全国の学生の憧れであり、住み続けたいまちとなっている。
- 世界中に京都のまちや大学の魅力が発信され、大学の教育研究力が高く、教育研究拠点機能や生活環境が充実していることから、大学を通じた国際的な交流が広がり、研究者や留学生の受入れが進んでいる。さらに、国内外の若者が山紫水明の自然や歴史的文化的環境に恵まれた京都の地で切磋琢磨することにより、国際社会で活躍する若者、京都大好きな若者が育っている。
- 京都の各大学における高度な学術研究の成果は多岐にわたり、京都地域のみならず日本、さらには世界に貢献している。
- 学生の社会貢献活動の支援や学生と地域、NPO等との交流の促進、産業界と連携した、社会・就業体験の充実など、オール京都による人づくりのシステムが構築され、学生の「人間力」が向上するとともに、その学生のパワーを活かして地域が活性化している。
- 大学の知の集積を活かし、ベンチャー企業の育成や新産業・知産業が創出され、京都の産業界が活性化し、学生の雇用へとつながっていると同時に、大学が、地域を教育研究の場として、京都のまち全体で学生を育て、地域の課題解決につながっているなど、産学公地域連携がますます進んだまちとなっている。

<政策指標>

指標	現況値	目標値
1 学生数 (全国の学生数に占める割合(18歳人口が減少する中で現時点での増加予定分を加えた学生数を維持する。))	4.6% (H21) (13万9千人)	5.0% (14万5千人)
2 留学生数	4,688人 (H20)	10,000人 (H29) ※

※ 国際化推進プランで設定しているもの

市民と行政の役割分担と共汗

<共汗の方向性>

